

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

創立 35 周年記念

第 158 回定期演奏会

RI・TSU・DO

Drumming from Japan to Africa
The 158th Regular Concert

人はそれぞれ、自分の身体の中にリズムを持っています。それは、いわゆる心音—Heartbeat—であると思います。母の胎内で始まる最初の一打から、この生を終える時の最後の一打まで、beat は身体中を駆け巡っています。以前、音楽療法の講座で、自分自身の心音を太鼓で表現してみよう、という試みがありました。皆、それぞれ違ったリズムを表現し、ふたつとして同じリズムに出会わなかったという面白い経験があります。「叩く・打つ」といった素朴な行為に、習慣・風土・言語など諸々の要素が絡み合い、発展し、地域色豊かなリズムが生まれ、人から人へ、手から手へ受け継がれていきました。今回は、韓国・インド・ペルシャ・アフリカ・日本の打楽器が結集しています。各国の打楽器の違いを楽しみながらお聴き頂ければと思います。“私達はこんなにも違う”という発見から、また新たな旅が始まるかもしれません。

佐藤容子

2000年1月22日(土) 昼：1時半開演/夜：7時開演 青山円形劇場

企画・構成：尾崎太一

音楽コーディネータ：佐藤容子

舞台監督：金子根古

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302

TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033

ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/promusica>

E-Mail promusica@ro.bekkoame.ne.jp

助成：文化庁・日本芸術文化振興会

舞台芸術振興事業

財団法人 ローム ミュージック ファンデーション



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

プログラム

一、日本一郷愁のリズム『まつり』

～颯踏一パラフレーズ～ 長沢勝俊作曲・尾崎太一構成

[笛] 竹井誠・越智成人

[打楽器] 尾崎太一・西川啓光・仙堂新太郎・望月太喜之丞・細谷一郎（客演）

「颯踏」は今日まで、何度も演奏されてきましたが、今回は作曲者の了解を得て、少し視点を変えてパラフレーズで演奏いたします。

まずI章は「祈り」を主題とし、笛（能管）をメインにして、打楽器は、大拍子、太鼓に変えて、小鼓が入るオリジナルな形に戻してみました。

II章は、笛（篠笛）、太鼓、大太鼓、チャンチキによる「神楽」が主題ですが、今回は更に発展させて、メインテーマである「まつり」のもつエネルギーをステージいっぱいにはり広げてみようと思っています。（尾崎太一）

二、韓国一躍動のリズム『サムルノリ』

～ノリ・ノリ／サムルノリ～ 西川啓光作曲／仙堂新太郎作曲

[笛] 越智成人

[打楽器] 韓国中央打楽アンサンブル：朴天志・李承鎬・朴永珍・李英薫（客演）
西川啓光・仙堂新太郎

この「ノリ・ノリ」は1998年に作曲したもので、韓国の打楽器グループと日本の打楽器グループが一緒に、又聞いて下さるお客様も、我々演奏家も、楽しく演奏できるように作曲しました。メロディーも単純で分かりやすく、打楽器のパートも自由性を持たせ、各人の個性が出易い曲です。

さて「サムルノリ」のことですが、「サムル」とは、四つの打楽器のことで、「チャン」「プク」「チン」「ケンガリ」の四つの楽器編成から成っており、韓国に昔から伝わる「農楽」を元に、新しくアレンジをして、今は演奏されているようです。「ノリ」とは、「遊ぶ」という意味だそうです。

肩から掛けて演奏し、日本の「鼓」の元といわれている「チャンゴ」。「プク」と呼ばれる低音の太鼓は、常に基本のリズムを打ち続けます。「チン」は日本の「銅鑼」で拍子の一拍目を受け持っています。なかでもサムルノリの演奏でチャンゴと並んで花の楽器は「ケンガリ」でしょう。一本のバチで細かいリズムを打つテクニックは素晴らしいものです。

「ノリ・ノリ」とは、韓国語の「遊ぶ」と、日本語の「乗って行こう」を、合わせ付けた題名です。まったく違うリズム感を持つ韓国の打楽器と日本の打楽器が、うまく「乗って、遊べる」と良いですね。（西川啓光）

三、インドー精緻のリズム『タブラ囃子』 ～ボールショ～ 黒坂昇作曲

[打楽器] 吉見征樹 (客演)・尾崎太一・望月太喜之丞

3拍子、4拍子に慣れてしまっている中、変拍子と聴くと何やら難しい、…が先行しがちです。

インド音楽では、一般的な16拍子の他に6、7、8、10、12、14拍子などがあたりまえの様に演奏されますが、小節というタテの意識を忘れ、サイクルと言う物差しを用いると案外理解しやすいものです。

この作品は、非常にゆっくりとした12拍子(1小節50秒弱)と、心地よくも感じられる7拍子を中心に、インドのターラ(リズム周期)と日本のお囃子を組み合わせ、拍子をわかりやすくするために、拍の初めに鉦を使用しています。

(黒坂昇)

四、ペルシャー華麗なリズム『トンバック』 ～ペルシャの響き～

[打楽器] エスファンディアル・ラリ (客演)・立枝恵子

ペルシャ民族楽器は、現代の様々な楽器の源となりました。古代ペルシャ帝国時代には、それらの楽器を用い、雅びな楽が奏でられていました。シルクロードは、楽器の道とも言え、日本の雅楽に使われる楽器にも、ペルシャを源とするものをみる事ができます。

この度、演奏を聞いて頂く楽器は、トンバックという太鼓です。トンバックは“一面太鼓”ですが、音域は広く、力強い音と、繊細な音を同時に奏でられるのは、トンバックの特徴です。主に、指先を使い演奏しますが、複雑な指捌きとその動きの速さは、無限のリズムを奏でます。

この度の演奏は、奏者ラリのオリジナル・ソロのリズム体系を中心に致しました。古来より、連綿と受け継がれてきたペルシャの響きをどうぞお聞き下さい。

(エスファンディアル・ラリ)

五、アフリカーエネルギーのリズム『アフリカン・ドラム・セッション』 ～ソマジャ、ビービバ、ウオンヤ・アサフォ他～

[笛] 竹井誠

[打楽器] アクワバ：ナポレオン・ナナヤオ・ビリー (客演)
仙堂新太郎・望月太喜之丞・白杵美智代・立枝恵子

ガーナのトラディショナル・ミュージック・グループ「アクワバ」(ようこそ!)。リズムの宝庫であるアフリカ、その中でも特に力強さとバリエーションの多さで知られるガーナの伝統的なリズムをお楽しみ下さい。

パーカッションのみならず歌も入り、アフリカの大地を連想させる力強い演奏を聞かせてくれます。

六、日本に集う世界の打楽器ー集結そして爆発する『リズムのまつり』

サンバソウルさんばそうる 三番叟～る

お知らせ

2000 年度

日本音楽集団団員募集

オーディション:2000年3月22日(水)

詳細は事務局へお問い合わせください。



アイ・エム・エス ●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4

ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437